

# 社会の課題に対するよりよい解決策を考える子どもが育つ社会科学習

名古屋市立橋小学校教諭 田 中 健 一

## I 研究のねらい

子どもたちがこれから生きていく社会は、急速な情報化や技術革新によって社会構造や雇用環境が大きく変化する中、誰かの価値観や論理で評価されて動くのではなく、自分で考え、自分で行動し、よりよく問題を解決していこうとする人材が求められている。学習指導要領の社会編では、「知識・技能」の習得だけでなく、それらを使って主体的に考え、よりよい答えを求めていく「資質・能力」の育成に重点が置かれている。すなわち、これからの学校教育では、知識や技能を習得することだけではなく、社会の課題に対して自分で考え、自分で行動して解決する力を育むことを通して、よりよい社会の在り方を考える力を育むことが求められているのである。

「ナゴヤ学びのコンパス」では、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」姿が目指したい子どもの姿として述べられており、自分で考え、自分で行動する自律した学びが重視されている。自律した学びは創造的なアイデアを生み出し困難な状況に柔軟に対応する力を育むことができ、よりよい解決策を考えるための基盤となるものである。社会の課題を自分に関係する課題として捉え、学習に当事者意識をもって自律して学習に取り組めるようにすることが社会の課題に対するよりよい解決策を考えることの原動力となると考え、実践に取り入れる。また、学習を通して獲得した知識を基に自分の考えを練り上げ、よりよい解決策を考えることができるようにしていく必要がある。考えを練り上げるためには、獲得した知識を比較・関連付け、総合しながら自分の考えを再構成していくことが重要であると考え。学習指導要領の社会編にも「他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況の中で目的を再構築することができるようにする」と明記されており、よりよい解決策となるように考えを練り上げる活動を取り入れることは意義深いと考え、実践に取り入れる。

## II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立橋小学校 第4学年 27人

### 2 基本的な考え

主題に迫るためには、まず、社会の課題に当事者意識をもたせることで自律してよりよい解決策を考えようとするようにしていく必要がある。そして、課題解決に向けて追究する活動を行った上で、社会的な知識を比較・関連付け、総合しながら自分の考えを再構成することで考えを練り上げ、よりよい解決策を考えることができるようにしていく必要がある。そこで、「社会

の課題を捉える段階」「社会の課題の解決策を追究する段階」「社会の課題の解決策を練り上げる段階」の3段階の学習過程を設定し、社会の課題について当事者意識をもって捉える活動と、社会の課題に対する考えを練り上げる活動を取り入れ、次のように学習を進めることにした【資料1】。

段階	主な学習活動
社会の課題を捉える	① 社会の課題について当事者意識をもって捉える 「QFT」の手法を用いた 「パフォーマンス課題」の設定
社会の課題の解決策を追究する	② 「QFT」での問いを基に、社会の課題に対する現在の取り組みを自分のスマートを生かして調べる 自分の学習状況を確認する「評価サークル」 ③ 調べたことを基に社会の課題の解決策を考える
社会の課題の解決策を考える	④ 社会の課題の解決策について考えを練り上げる 子ども一人一人のスマートを生かした「MIセッション」 ⑤ よりよい解決策について表現する ⑥ 学習を振り返る

【資料1 基本的な学習過程】

### (1) 社会の課題を捉える段階

子どもが社会の課題に当事者意識をもつことができるようにするために、「QFT」の手法を取り入れた「パフォーマンス課題」の設定を行う【資料2】。教師の発問で学習を進めるのではなく、子どもの問いを生かして学習を進められるようにする「QFT」は、アメリカ正問研究所のダン・ロススタイン氏らによって開発された教育手法であり、多様な視点から様々な問いを生成し、改善するための構造化された手法である。自ら問いを生み出すことで、社会の課題に対して当事者意識をもって自分で解決しようとする自律した学びにつなげたり、問いを比較することで社会の課題について深く考えることにつなげたりすることができる。さらに、「QFT」に様々な知識やスキルを使いこなすことを求める「パフォーマンス課題」を組み合わせ、学習の目的を明確にさせる。単元の初めに、単元の終末までを見通して学習計画表を立て、自律して社会の課題の解決策を考えようとするようにする【資料3】。

手順	①	教師が問いを作り出すための「問いの焦点」を提示する
	②	子どもたちが、問いをつくる
	③	子どもたちが、優先順位の高い問いを選択する
	④	教師が学習内容に関わる困りごと（社会の課題）を提示する
	⑤	教師と子どもが、「パフォーマンス課題」を考え学習計画表を作る
	⑥	教師と子どもが、「パフォーマンス課題」のルーブリックを考え学習計画表を作る

【資料2 「QFT」の手法を取り入れた「パフォーマンス課題」設定の流れ】

【資料3 学習計画表】

### (2) 社会の課題の解決策を追究する段階

車座になり、心理的安全性を確保した状態で自己評価や他者評価をする「評価サークル」を行う。「評価サークル」の後には、評価を基に学習計画を見直したり、本時のめあてを立てたりする活動を行う。「評価サークル」での評価を取り入れて学習計画を変更したり、学習内容を追加したりして追究をするようにさせ、自律して社会の課題の解決策を考えようとするようにする。

### (3) 社会の課題の解決策を考える段階

子ども一人一人の可能性を引き出した上で表現することができるようにするために「パフォーマンス課題」の表現方法を画一的にするのではなく、「MI理論」を基に、子ども一人一人のスマートに合わせて選択させる。「MI理論」は、ハーバード大学のハワード・ガードナー氏によって提唱された知能を単一ではなく八つに分類して捉える理論であり、異なる知能のタイプを理解し、それに基づいて効果的な学習環境を構築するための理論である。「MI理論」を活用することで学習者の多様性を尊重し、個別最適な学びを実現することができ、深い理解と主体的な学びを促進することができる【資料4】。子ども一人一人のスマートを把握するために実践前にアンケート調査を行い、子ども同士が互いのスマートに気付くことができるようにするためのレーダーチャートを作成し、掲示しておくようにする。学習したことを表現する際に、子ども一人一人のスマートを生かして対話する「MIセッション」を行う。「MI理論」を生かしたグループ編成を行うことで、探究的な活動が活性化されることが報告されている。似たスマートをもつ子ども同士での「MIセッション」では学習への深いアプローチを促し、異なるスマートをもつ子ども同士での「MIセッション」では多様な視点からアプローチすることを促す。アイデアを出し合うブレインストーミングと対話を組み合わせて「MIセッション」を行い、獲得した知識を比較・関連付け、総合しながら自分の考えを再構成する活動を通して考えを練り上げ、よりよい解決策を考えることができるようにする。

知能の種類	表現方法
言葉スマート	新聞、ポスター、詩、俳句、スピーチ など
数字・理由スマート	表、グラフ、活動の流れを話す、ポイントを示す など
空間スマート	映像、絵、デザイン、何かを見せながら など
音楽スマート	リズム、歌、音楽を使う など
運動スマート	劇、ロールプレイング など
人間関係スマート	グループワーク、聞き手と一緒に など
振り返りスマート	自分の考えを話す、活動の記録を使うなど
自然スマート	比較をする、分類をする など

【資料4 「MI理論」を参考にした学び方のアプローチ】

3 「ごみのしよりと利用」「風水害からくらしを守る」における学習展開

<p>単元と目標</p>	<p>単元「ごみのしよりと利用」 (11 時間)  <b>【実践のねらい】</b>                  ごみと資源を処理する事業は衛生的な処理や資源の有効利用のために進められていることや地域の人々の衛生的な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの適切な処理や資源の再利用など学んだことを社会生活に生かそうとしている。また、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに注目して調べ、それらの事業が果たす役割や生活環境の維持と向上のために自分たちにできることを考え適切に表現することができるようにする。</p>	<p>単元「風水害からくらしを守る」 (11 時間)  <b>【実践のねらい】</b>                  地域の関係機関の人々は、伊勢湾台風や東海豪雨に対し様々な協力をして対処してきたことを理解し、地域で起こり得る風水害を想定した対策や備えなど、学んだことを社会に生かそうとしている。また、伊勢湾台風や東海豪雨の被害の様子や県庁や市役所を中心とした警察署や自衛隊、消防団などの関係機関の協力・連携に着目して調べ、人々の活動の働きや風水害に対する備えのために、自分たちにできることを考え適切に表現することができるようにする。</p>
<p>段階</p>	<p>主な学習活動</p>	
<p>社会の課題を捉える</p>	<p>① 家庭や学校で、様々な種類のごみと資源が出ていることを捉え、問いの焦点「ごみや資源の処理方法を工夫したことで、名古屋市はごみをへらすことができた」に対して「QFT」を行う。</p> <p>② ごみの量を減らすことはできたが、あと 20～30 年で愛岐処分場がいっぱいになってしまうという事実を示し、「パフォーマンス課題」を設定し、学習計画を立てる。【検証場面 1】</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【パフォーマンス課題】</b>                      名古屋市のごみや資源の処理について調べて、名古屋市のごみを減らすためにわたしたち一人一人にできることを提案しよう。</p> </div>	<p>① 新聞記事やニュース映像から身近なところで風水害の被害が起きていることを実感させ、問いの焦点「様々な人々が素早く協力をして、風水害の被害を防いだり減らしたりしています」に対して「QFT」を行う。</p> <p>② 「防災に関する意識調査結果のあらまし」から、一人一人の防災意識が高いとは言えない事実を示し、「パフォーマンス課題」を設定し、学習計画を立てる。【検証場面 1】</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【パフォーマンス課題】</b>                      風水害からくらしを守る取組について調べ、市民の風水害に対する防災意識を高める提案をしよう。</p> </div>
<p>社会の課題の解決策を追究する</p>	<p>③～⑦                  学習計画に基づいて調べる。                  振り返りを行い学習計画表の見直しを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【視点】</b>      ごみの処理    再利用</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>WEB サイトで調べる。    学習帳で調べる。                  図書室の本で調べる。    インタビューをする。</p> </div>	<p>③～⑦                  学習計画に基づいて調べる。                  振り返りを行い学習計画表の見直しを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【視点】</b>      被害を減らす    被害を防ぐ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>WEB サイトで調べる。    学習帳で調べる。                  図書室の本で調べる。    インタビューをする。</p> </div>
<p>社会の課題の解決策を考える</p>	<p>⑧ 「MIセッション」を行い、同じスマートをもつ子ども同士で話し合ったり、違うスマートをもつ子ども同士で話し合ったりし、まとめる内容について考えを練り上げる。                  【検証場面 2】</p> <p>⑨⑩ 「MI セッション」を生かしてまとめる。</p> <p>⑪ まとめた内容についてグループで発表し、学習を振り返る。</p>	<p>⑧ 「MIセッション」を行い、同じスマートをもつ子ども同士で話し合ったり、違うスマートをもつ子ども同士で話し合ったりし、まとめる内容について考えを練り上げる。                  【検証場面 2】</p> <p>⑨⑩ 「MI セッション」を生かしてまとめる。</p> <p>⑪ まとめた内容についてグループで発表し、学習を振り返る。</p>

#### 4 児童の実態調査

単元「水はどこから」の「社会の課題を捉える」段階において、自律して課題解決しようとしているか、学習計画表の記述から調査する。また、「社会の課題の解決策を追究する」段階で学習の見通しをもち、学習を調整しながら学習に取り組むことができているかを学習計画表の記述から調査する。さらに、「社会の課題の解決策を練り上げる」段階で、自分の考えと友達のことを比較したり、統合したりして考えを練り上げ、よりよい解決策となるようにしようとしているか、学習の振り返りから調査する。

#### 5 研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「QFT」の手法を用いて「パフォーマンス課題」を設定することは、単元のゴールまでを見通して学習計画を立て、自律して課題解決しようとしていくことができるようにする上で有効か、学習計画表からつかむ。
- (2) 「パフォーマンス課題」の表現方法を、「MI理論」を参考にして子どもに選択させ、「MIセッション」で表現内容を共有することは、似たスマートや異なるスマートをもつ子どもの考えを取り入れ、よりよい解決策を考えることができるようにする上で有効か、学習の振り返りからつかむ。

### Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。
5	○ 実態調査を行う。 ○ 第1次授業研究の授業計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践単元「ごみのしよりと利用」 【検証点1】 「社会の課題を捉える」段階において、「QFT」の手法を用いて「パフォーマンス課題」を設定することは、単元のゴールまでを見通して学習計画を立て、自律して課題解決しようとしていくことができるようにする上で有効か、学習計画表からつかむ。 【検証点2】 「パフォーマンス課題」の表現方法を、「MI理論」を参考にして子どもに選択させ、「MIセッション」で表現内容を共有することは、社会の課題に対する考えを練り上げ、よりよい解決策を考えることができるようにする上で有効か、振り返りからつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）先進研究者を訪問し、研究を深める。 （訪問予定先） ・京都教育大学 名誉教授 村上忠幸氏      ・板橋区立高島第三中学校 副校長 中野英水氏 ・白百合女子大学 准教授 涌井恵氏      ・早稲田大学 教授 本田恵子氏 ・京都産業大学 教授 佐藤賢一氏 ○ 第2次授業研究の授業計画案を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究実践単元「風水害からくらしを守る」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、最終
12	のまとめを作成する。
1	○ 「社会の課題に対するよりよい解決策を考える子どもが育つ社会科学習」について1年間の成果
2	や課題をまとめ、発表する。

参考・引用文献 澤井陽介 中田正弘 加藤寿朗 宗實直樹 『これからの社会科学教育はどうあるべきか』 東洋館出版(2023)